

## 宮古市・被災者交流の場に

### 仮設集会所完成



宮古市鉾ヶ崎地区に仮設集会所「ODENSE 2」が完成しました。建物は、直径10メートル、高さ4メートル。六角形の板と五角形の窓を組み合わせ、まるでサッカーボールを半分に切ったような形をしています。宮古市の社会福祉協議会がNPOの資金援助を受けて建設したもので、立命館大学理工学部の宗本晋作准教授が設計しました。鉾ヶ崎復興会議の古館昌三会長は

「本当に助かります。住民としても集まる場所がなかったものでこれからはおおいに使わせていただきたい」と話していました。(9/6 ニュースエコーより)

## 被災地を自転車で

### 陸前高田で「ツール・ド・三陸」



陸前高田市では被災地の現状を多くの人に知ってもらおうというサイクリングイベント「ツール・ド・三陸」が開催されました。「ツール・ド・三陸」は現在の陸前高田を自転車に乗り見てもらう事で震災の風化を防ぎ街の復興に繋げようと、今年初めて開催されました。イベントには全国から総勢367人が参加。高田小学校を発着点に2つのコースに分かれ被災した街を自転車で走りました。参加者はサイクリングを楽しみながらも、津波被害の大きさを改めて実感していました。(9/9 岩手日報 IBC ニュースより)



## 世代間交流フェスタ

### 三陸めぐり逢いラジオ in 野田



「世代間交流ふれあいフェスタ」の会場からお届けする「三陸めぐり逢いラジオ」6回目は9日、野田村野田体育館から生中継。今回は、神山浩樹、甲斐谷望両アナウンサーがおじゃましました。食のコーナーではゆかべ（寄せ豆腐）、ひつつみなど郷土食のお振る舞いが行われ、参加者は野田の味を堪能していました。



地域クラブやシルバー人材センター紹介のコーナーでは、木工、手芸などさまざまな分野のグループが日ごろの活動の様子を紹介。ほかにも昔遊びコーナーやお絵かきのコーナーなど、多彩なイベントが行われ、会場はたくさんの参加者でにぎわいました。「世代間交流ふれあいフェスタ」次回、第7回は、9月23日（日）11：00-15：00 岩泉町民体育館で行われます。



番組の冒頭では、野田村の被害状況も報告しました。今回の震災では全世帯の1/3のおよそ500世帯が前回、大規模半壊の被害を受け、亡くなられた方も38名、被災した方は1500人以上にのぼり、多くの方が仮設住宅や親戚などに身を寄せて暮らしています。

「IBC復興支援室だより」では、ラジオ、テレビなどIBCを通じて放送する、震災復興に関するさまざまな情報をピックアップし、リリース等を通じて定期的に発信・紹介します。  
IBC復興支援室事務局（ラジオ放送部内）019-623-3122